

**県政モニターからの提案に対する県施策への反映状況**  
**(「課題解決型」図書館の取組に対する評価及び今後取り組むべき社会的課題)**

県政モニターからの提案		県施策への反映状況
<b>(1)「課題解決型」図書館の取組に対する評価</b>		
<b>【提案①】図書館の取組についてのより効果的な情報発信</b>		
1	SNSを活用し、利用者の目に留まるような方法での情報発信を行う	図書館に対して親近感を持ってもらえるように、イベントの開催情報だけでなくその過程を含めて投稿を行うなど図書館の活動を見える化したり、効果的なLINE等の活用方法を検討する。
2	ターゲットごとに発信の方法を工夫する	■クリスマスや夏休み前の児童図書室の飾りつけのようなカウントダウン的要素のある業務、図書館ツアーや蔵書点検のような普段見ることのできない業務などの様子について、SNSで積極的に発信する。 ■図書館情報にアクセスしてもらいやすいよう掲示物やチラシへのQRコード掲載を継続する。
3	オンライン会議システムを活用し、距離的格差を図書館のネットワークで補う	■高齢者を対象とした音読教室のケーブルテレビによる放映と制作動画のホームページでの配信、視覚障がい者を想定したラジオによる情報発信を実施する。 ■新たに「居場所としての図書館を考える講演会」及び「サポートの必要な家庭の現在を知り、協働するための意見交換会」を開催する。
4	電子図書の導入について、法令や他県等の状況を踏まえて検討する	■市町村立図書館や学校図書館等との連携や支援を強化するため、令和3年度中にオンライン会議システム(専用環境)を整備した。 ■電子図書の導入については、令和4年度から協議会を開催し、地域資料の保存・蓄積・公開を進めるための検討を行うこととしており、令和4年1月には、県内の出版社等と県外の先進地をオンラインでつないだ勉強会を開催した。 ■電子書籍についても、令和3年度中に事業者との協議を開始し、導入に係る課題整理等を始めた。
<b>(2) 図書館が今後取り組むべき社会的課題(=今後、県立図書館に期待すること)</b>		
<b>【提案③】交流の場・アイデア創造拠点としての場の提供</b>		
5	オンライン会議システムの活用	■市町村立図書館や学校図書館等との連携や支援を強化するため、令和3年度中にオンライン会議システム(専用環境)を整備した。
6	対面での議論が可能な環境、勉強や仕事が行えるような機能を備えた場の整備	■新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、小研修室の開放を試行的に実施する予定としている。 ■「すなば珈琲」と連携して、同店に展示している当館の図書を読みながら飲食したり、議論したりする空間を創出する。
7	プッシュ型支援を推進し、課題解決を後押しする	様々な課題を抱える方の課題解決や支援のため、以下の事業等を実施する。 ■正しい情報を選択し使いこなす重要性の普及啓発を目的とした感染症専門家による講演会 ■視覚障がい者等に対するサービス提供のための環境整備とサービスの拡充、読書バリアフリーの啓発 ■高齢者を対象とした「情報活用講座」 ■ケーブルテレビによる音読教室の放映と制作動画のホームページでの配信

【提案④】子どもの人材育成の場・子どもが集まる場としての機能の強化			
8	児童の教育支援や居場所として、子どもや親子連れが訪れたいくなるようなイベントを充実させる	子ども向けの工作イベント等を継続実施するほか、子の親も図書館を訪れたいくなるようなイベントを充実させ、より多くの子どもの来館を促進する。また、これらの図書館の利用促進に応じた取組により、図書館や本に触れ合うきっかけにしよう。	■新型コロナウイルスの状況を見ながら、託児サービスを実施する予定である。
8	地域に伝わる昔話や歴史を子どもたちに伝承する	歴史の本や昔話集など既存のツールを活用し、昔話の伝承や鳥取県の歴史を子どもたちに伝えていく。	■「鳥取県に伝わる昔話を聞く会」を月1回開催するとともに、収録した動画を「とっとりデジタルコレクション」で公開する。 ■館内で配布及し、ホームページにも掲載している『郷土学習ガイドの「伝説・民話について調べよう!」』を更新する。 ■「鳥取の昔話」を紹介する展示を行うとともに、市町村立図書館や学校図書館への情報提供を行う。
【提案⑤】知識の情報拠点としての図書館の展望			
9	蔵書の検索システムの更新に合わせて、より精度や利便性の高いシステムづくりに取り組む	<具体例> ・多様な検索機能を備えたシステムの開発	
10	県内の発刊物が効率的に収集できるような仕組みを構築する	県内で発刊された図書等をできる限り収集して提供することが図書館に期待されるため、今後の展望として提案する。	